

生協の21世紀理念

生協の21世紀理念

自立した市民の協同の力で
人間らしい暮らしの創造と
持続可能な社会の実現を

(「理念」のことは少し長くなりますが、考え方を正確に表現することを重視しています。)

- わたしたちは、「自立した市民の協同の力で 人間らしい暮らしの創造と 持続可能な社会の実現を」を生協の21世紀理念とし、人類史的な社会の変革期に、なによりも人びとの幸せを大切にして行動します。

- 人びとの自立、自助をもとに、おたがいに助けあう新しい市民社会をつくってゆくことが必要です。日本社会にありがちな画一的集団主義から脱皮し、自主性、自発性、個性を大切にした社会運営が求められます。一人ひとりの人間には、年齢、性別、価値観などのちがひがあります。それらを認めあい、助けあって、人とひととが共生できる社会をつくることが求められています。

人間は、他の人との助けあひなしに、一人では生きていけません。私たちの目的はみんなの力を合わせてこそ、すなわち「協同」があつてこそ達成できます。

「自立と協同」は個人と社会の関係をあらわすだけではなく、生協間の関係をも律する原理です。また「自立と協同」は、全地球的に国や民族がお互いに認めあい、人とひととが共生できる社会をつくるために、そして自然との共生をはかるために、すなわち「持続可能な社会」を実現するために大切な原理です。

わたしたちは、利益追求が自己目的化し、資本力がすべてをきめる資本の論理ではなく、「市民の協同」こそ、「人間らしい暮らしの創造と持続可能な社会の実現」をおしすすめる原動力であることを確信します。

- 人間らしい暮らしとは、モノだけではなく、心の豊かさや、すこやかさ、ゆとりがある暮らしです。

そのためには、人間を大切にした、創造性ゆたかな経済・社会がつくられなければなりません。また、おたがいの多様な生きかたの選択・個性を認めあう人間関係や、一人ひとりが大切にされる、ふれあいとぬくもりのあるコミュニティの創造がなければ、人間らしい暮らしは営めません。高齢者が安心してくらすこと

ができ、若者たちが未来に希望をもち、子供たちがのびのびと成長できる社会の実現が必要です。

わたしたちは、人間らしいらしや社会を、与えられるものではなく、みずからつくりだす目標としてかかげます。生協運動は、人びとの経済的・社会的・文化的ニーズやねがいを、組合員がみずからつくる事業や活動をつうじて実現します。

- 地球環境をまもり、限りある資源を、自然との調和を大切にしながら有効に活用していくことは、いま人類にもっとも求められている課題のひとつです。21世紀以降も人類が地球の一員として生存し、自然と共生していくためには、リオ環境サミット「アジェンダ21」で強調された「持続可能な発展」の共通課題を解決しなければなりません。そして、そのことを人類の共通の認識としていくことが求められています。

産業や生産中心につくられてきた社会を、人びとの消費を起点にした人間優先の社会につくりなおしていくことが必要です。それは、男女共同参画社会を実現するためにも必要です。さらには、科学万能という科学技術観、自然観をはじめ近代文明の価値観を見なおしていくことが求められています。それは、科学や技術を否定することではなく、人類の知恵の成果を環境保全型システムなど、人々の幸せのための新しい枠組みで有効に活用していくことを意味します。

「持続可能な社会の実現」のためには、国や民族をこえた協調が不可欠です。経済、政治、文化のグローバル化のもとで、人類共通のねがいである核兵器のない平和な地球を実現し、また南北問題を解決するために、生協運動の立場からの努力をつづけます。

<注記> この「生協の21世紀理念」で出てくるキーワード的な用語については、以下の内容を意味するものとして使用しています。

- *理念：根底にある根本的な考え方、価値観、変わらぬ信条・信念を意味します。一般的に「企業理念」とは、内外に認知されたい企業イメージ、企業のはたすべき役割、経営にとりくむ姿勢などをあらわします。生協の理念では、生協という特質をふまえて、あるべき社会、生協の使命、行動規範（経営姿勢）、の三つの要素を数十年スパンでの価値観として表現しています。
- *市民社会：自由・平等な個人が自立した対等な関係で構成することを原理とした社会を意味します。個人の権利を保障するとともに、個人が市民としての責任をはたす社会が必要です。市民社会の確立には個人の自立が欠かせませんが、同時に人間は孤立しては生きられず、おたがいに認めあい協同することが必要なことから、生協の21世紀理念では「自立した市民」の「協同の力」で新しい市民社会を実現することをかかげました。
- *持続可能な社会：将来の世代の経済的・社会的利益をそこなわない形で現在の世代が活動する社会を意味します。「持続可能な」という言葉は、1987年に「国連・環境と開発に関する世界

委員会（ブルントラント委員会）」が、「持続可能な開発（発展）」をつよく求めて以降、地球サミットを契機として環境保全の基本的考え方として定着しました。今日では、環境問題にとどまらない、より広い概念として使うことが必要と考えられます。生協の21世紀理念では、「持続可能な社会」という言葉の意味に、自然との共生にくわえて、協同や福祉、男女共同参画、社会的連帯、平和、などが実現された新しい市民社会、コミュニティの創造という意味をこめています。

*消費：消費はこれまで、浪費というニュアンスや、生産に対応するマーケティングの対象としての消費、という意味合いで考えられることが多かったといえます。近代以降の社会では生産優先の価値観がつよく、資源の浪費と環境の破壊がすすんできました。「生協の21世紀理念・ビジョン」では、「消費」という意味を、生活の継続的活動、人間らしいくらしの実現の過程、として使っています。社会的サービスの利用も消費としてとらえられます。

こうした消費のとらえかたによって、生産に対するあるべきコントロールが可能となると考えられます。生協ではこれまで「生活者」という言葉も使ってきましたが、「生協の21世紀理念・ビジョン」では、こうした意味から「消費」や「消費者」という言葉を使用しています。

*運動・事業・活動：生協は事業体を通じて人びとの経済的・社会的・文化的ニーズとねがいを満たしますが、そのことを運動としてとらえます。生協運動は人びとの思いを事業化し、組合員の活動として広げます。事業は物品の購買だけを意味しません。生協にとって運動とは、事業と切りはなされたものではなく、事業と組合員のさまざまな活動をふくむ意味をもっています。